

	身に付けさせたい基礎基本	児童の実態と改善プラン
国 語	- ひらがなを書き、かたかなを読むことができる。 - 新出漢字（80字）が読める。 - 年間30冊以上、本を読むことができる。	1学期は、ひらがなを指導した。濁音、半濁音、拗音、促音、助詞を文の中で正しく使える児童は、半数程度である。2学期以降も言葉集めや言葉遊び、短文作りの課題を繰り返し行い、正しく表記できるようにする。かたかなの指導では、スクールタクト等の課題を用いて、使用する場面の定着を図る。 - 漢字の指導では、漢字ノートを活用し、読み方、筆順、使用法を指導する。定期的に漢字テストを行う。家庭学習にも漢字練習や教科書の音読を取り入れ、定着を図る。 - 読書の時間を週に1時間程度設ける。学校図書館司書と連携して読み聞かせを行い、本への興味を高める。
算 数	1けたのたし算・ひき算ができる。	繰り上がり・繰り下がりのない計算は、たし算とひき算の違いを理解して立式し、ブロック等を使いながら9割の児童が答えを求められるようになった。2学期は、繰り上がり・繰り下がりの計算の仕方を考えさせ、ブロック操作や反復練習や計算カード、算数音読等で基本的な計算の力を高める。また、一人1台端末を活用しての問題演習や操作を通して理解を深めていく。
生 活	発見カードに気付いたことや感想を書ける。（2文以上）	観察や発見の観点やモデルを示し、カードに図や言葉で記録することができた。今後日常的に自然と触れ合う活動を取り入れ、それぞれの気付きや感想をもてるようにする。自然に関する写真を一人1台端末を用いて撮り、互いに見せ合うことで、気付きを共有させ、考えを広げたり深めたりできるようにする。
音 楽	身近な楽器で、簡単なリズム打ちができる。	- リズム遊びや打楽器のリズム打ちを楽しむことができた。リズム作りや、互いに聞き合ったり合わせたりする活動を通して、リズム感覚を身に付けられるようにする。鍵盤ハーモニカでは、タンギングや運指に気を付けながら演奏することができるよう指導する。 - 歌唱では、曲想を感じ取って歌うことや、友達と声を合わせて歌う活動を楽しむことができるようにする。
図画工作	のりやはさみを使って、簡単な工作ができる。	手順を分かりやすく示すことで複数の作業（描く、切るなど）を組み合わせる作品ができた。今後、道具の安全かつ効率的な使い方を指導しながら、見通しをもって取り組めるようにする。
体 育	自分のペースで2～3分走り続けることができる。	1学期は、50メートル走やリレー遊びなどで、全力で走ろうとする児童が多く見られた。個人差が大きいので学習カードや一人1台端末を活用して意欲的に運動させる。また、持久走月間などを通して、十分に活動時間を取り、持久力を高めていく。
道 徳	よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うことができる。	教材文の範読を聞き、登場人物の気持ちを考えて発言できる児童が増えてきた。教材を手掛かりに子供たちの実体験を振り返る機会を設け、すすんでよいことができたことを思い出しながら、よいこと、よくないことを学級全体で考えられるようにする。

令和7年度 授業改善推進プラン 2年生 小金井第二小学校

	身に付けさせたい基礎基本	児童の実態と改善プラン
国 語	・簡単な詩や文の音読ができる。 ・新出漢字（160字）が読める。 ・年間30冊以上、本を読むことができる。	・毎日の音読練習の宿題を通して、9割の児童が文のまとまりで音読ができるようになってきた。 ・新出漢字は、9割の児童が読めるようになってきた。習った漢字の定着を図り、日常生活でも活用できるように、一人1台端末のコンテンツなどを使った反復練習やテストをしていく。新出漢字の音読を、漢字を習う前から続けてすらすら読めるようにする。 ・読書好きの児童が多く、たくさん本を読んでいる。読み聞かせや本の紹介をし、本への関心を高めている。また、あらすじや感想を書いたり、交流したりする活動を通して、自分の考えを伝えることができるようにしていく。
算 数	・かけ算九九をすべて言える。	・「2年生ではかけ算を学習する」ということを児童の多くが知っていて、学習前から「早く習得したい」という意欲がかなり高い。かけ算音読カードを活用し、家庭でも暗唱練習するよう課題を出し、定着を図る。また、一人1台端末を活用した反復練習や百ます計算プリントによる練習を行い、習得できていない児童を把握し、個別指導で支援する。さらに、問題解決型の学習を通して、習ったことを様々な場面で活用できるようにする。
生 活	・植物に関心をもって育て、その生長に気付くことができる。	・野菜の育て方を本で調べ、それをもとに世話や観察を行い、興味・関心を高めた。9割の児童が関心をもち、調べたり育てたりすることができた。観察では、国語の「かんさつ名人になろう」の学習を生かし、観点を示して違いにも目を向けさせる。
音 楽	・2拍子、3拍子を感じて演奏することができる。	・ボディパーカッションやリズム遊び、リズムづくりなどの表現活動を行い、拍を感じることができるようになった。打楽器を用いたリズム遊びも取り入れ、9割の児童がリズム打ちをすることができた。また、一人1台端末を使用して互いの演奏の動画を撮って見合ったり、交流したりすることで意欲を高める。
図画工作	・水彩絵の具を使って、混色、重色ができる。	・絵の具の使い方は、大体の児童が理解している。題材を工夫することで、混色や重色の楽しさを味わわせながら、色や抽象的な発想を広げられるようにする。また、作品を撮影したり実際に見合ったりすることで意欲を高める。
体 育	・縄跳びの前とびが10回以上できる。	・昨年度、前回し跳びや駆け足跳びなど、様々な技に取り組んできたが、意欲や技能の個人差が大きい。学習カードや一人1台端末を活用して跳び方のコツをつかませ、意欲をもたせる。
道 徳	・友達や家族に温かい心で接し、親切にできる。	・教材文の範読をよく聞き、登場人物の気持ちを考えて発言できる児童が多い。価値に迫る中心発問を吟味し、役割演技や話合いの工夫をすることで、道徳的心情を育む。

令和7年度 授業改善推進プラン 3年生 小金井第二小学校

	身に付けさせたい基礎基本	児童の実態と改善プラン
国 語	- 複数の文章の音読ができる。 - 新出漢字（200字）が読める。 - 年間30冊以上、本を読むことができる。	- 学年共通で音読の宿題を出し、複数の文章を音読する機会を設けているため、音読することは概ねできている。一人読み・たけのこ読み・一斉読みなどのバリエーションを付け、楽しみながら音読に取り組み、口を開けてはしっかりと読んだり、抑揚を付けて表現したりする力をさらに高めていく。 80%以上の児童が漢字を読めている。一方、書き取りの定着が低いため、漢字の成り立ちや組み立てについて丁寧に指導する。 - 図鑑や絵本ばかりを手にする児童もいる。週に1回は図書の時間を確保し、様々なジャンルの本に触れられるようにする。
社 会	- 四方位が分かる。 - 地図記号の意味が分かる。	80%以上の児童が四方位を覚えている。教室掲示をして定着を図る。 - 日常生活で触れる機会が少なく、定着しづらい。地図帳やWeb上でのクイズを活用して、地図記号の定着を図る。
算 数	2回くり下がりのあるひき算ができる。 - あまりのあるわり算ができる。	80%以上の児童が正確に計算することができている。一人1台端末や宿題等で反復練習を行い、正確さを高めていく。 - 九九の定着に個人差がある。授業の帯活動として百ます計算やフラッシュカードを取り入れ、基礎を身に付けさせる。
理 科	- 太陽の動きとはたらきが分かる。 - 昆虫と昆虫でないものの区別ができる。	- 太陽の動きについては生活の中で90%以上の児童が正しく捉えられている。はたらきについては実感を伴った理解ができるように、日常的に話題にして興味をもたせたり、ICT教材を活用してイメージしやすくしたりする。 90%以上の児童が昆虫と昆虫でないものの区別ができている。今後も虫を捕まえて観察する活動を取り入れていく。
総 合	- テーマを決めて調べることができる。 - 原稿を見ないで30秒の発表ができる。	- 主体的に学習に向かう児童がいる一方、自分で考えて学習を進めることが難しい児童もいる。テーマ設定の例を提示し、テーマや方法をいくつかの候補から選んで取り組めるようにする。 - 聞き手の目を見て、はきはきと発表できる児童の割合は、2割ほどである。国語科と関連させ、「話し方のあいさつ」を提示し、「特に伝えたいこと」を意識して話すよう指導する。発表形式の授業を学期に数回取り入れ、日頃からペアやグループで伝え合う授業を設定する。
音 楽	ソプラノリコーダーの構え方、息の使い方を正しくできる。	リコーダーを楽しみながら演奏している児童が多いが、中には苦手意識をもっている児童もいるため、児童が演奏したいと思えるような親しみやすい曲や短く取り組みやすい曲を用意し、達成感をもたせることを大切にする。個人やグループで発表する時間を増やし、演奏を聴き合うなどの学びの場をもつようにする。正しい運指や姿勢、指の押さえ方の指導では、イラスト・映像・教師の模範演奏など教示の仕方を工夫する。
図画工作	- カッターナイフを正しく使うことができる。 - 身近にある作品などから自分の見方感じ方を広げることができる。	- 活動に真摯に取り組むが故に、安全面の配慮を欠くことがある。安全面を十分配慮した上で活動を行う。作品制作を通して、正しいものの使い方を理解し、自身の技能に結び付けていく。 - 活動を通して、自他の作品を見る時間がさらに活動を深化させることができる。鑑賞の時間を通して、自分の見方、感じ方を広げ表現を豊かにする。
体 育	柔軟運動や体を支える運動に継続して取り組み、体を強く柔らかくすることができる。	柔軟性や体を支持する力は、児童によって差が大きい。運動への意欲は高い児童が多いため、運動のポイントを指導し、継続的に取り組むことで効果をより高められるようにする。
外国語活動	外国語をつかって様々なあいさつができる。	ICT教材を活用して、世界各国の「こんにちは」に親しみ、外国語に興味をもつことができた。授業の冒頭で自分の調子を英語で答える活動に取り組み、自然に話せるようにしていく。
道 徳	正しいと判断したことは、自信をもって行うことができる。	自分の生活や行動を振り返り、今後の自分の行動について考えたりすることができた。今後もじっくり考えられるように時間を十分に確保する。ICT教材や挿絵を提示し、教材に入り込めるようにする。

令和7年度 授業改善推進プラン 4年生 小金井第二小学校

	身に付けさせたい基礎基本	児童の実態と改善プラン
国 語	・新出漢字（202字）が読める。 ・一人1台端末でのローマ字入力を、文字を書くと同様に行えるようにする。 ・年間30冊以上、本を読むことができる。 ・説明文や物語文の音読ができる。	・新出漢字の読みの習得には個々の差が大きく見られる。週1回程度のミニテストで、漢字の読み書きの習熟を図る。 ・ローマ字の習得には大きな個人差が見られるので、国語の授業だけでなく、日常的に一人1台端末を活用する機会を多く設けることで文字入力がスムーズに行えるようにする。 ・意欲的に読書に取り組む児童が多い。今後も図書支援員と連携し、図書の時間の読み聞かせや、各学級での本の紹介等を計画的に実施し、児童の読書の幅を広げさせる。 ・音読はほとんどの児童が家庭学習で毎日取り組んでいる。今後も継続して取り組んでいく。
社 会	・小金井市と東京都の位置が分かる。 ・資料の情報を読み取る力を養う。	・授業中の地図帳の活用によって、小金井市や東京都の位置は9割以上の児童が習得した。また、東京都に隣接している県名も覚えている。 ・グラフや表などの資料を適宜提示し、目にする機会を確保する。また、読み取った内容をもとに自分の考えや学習の振り返りを行う。
算 数	・わり算の筆算ができる。 ・角の大きさが測れる。 ・平行・垂直がかけれる。	・ワークテストでは1桁のわり算の筆算、角の大きさともに7割程度の到達度であった。思考・判断・表現の問題の到達度が低い傾向にある。関連する単元を指導する際には復習から取り組み、既習事項の定着を図る。また、知識を生かす問題にも取り組ませる。 ・2学期始めの学習内容の「2桁でわるわり算の筆算」を1学期末に繰り上げて指導し、夏季休業中での家庭での習熟期間を確保した。 ・図形の学習では、観察や構成などの活動を通して要素に着目し、特徴を捉えさせる。
理 科	・温度計の測り方が分かる。 ・植物の育ち方が分かる。	・観察や実験の結果から、違いや同じところを比べながら、自然の事物、現象について理解していた。 ・既習の内容や生活体験を基に、根拠のある予想や仮説を発想させることで、問題解決能力の育成を図る。 ・一人1台端末を活用して定期的に復習に取り組み、理解を一時的なものに留めず、確かな定着につなげる。
総 合	・体験したことから、自分ができることについて考えることができる。 ・原稿を見ずに1分の発表ができる。	・実際の場所を見て歩き、地域の事件・事故の防止のための安全マップ作りに取り組んだ。集めた情報を一人1台端末の活用や手書きを選択し、グループでまとめを行った。 ・2学期以降、プレゼン資料の作成とともに発表する機会を設ける。
音 楽	・リコーダーで、下のドから上のファ（11音）を演奏できる。 ・簡単な二部合唱を聴いたり、歌ったりすることができる。	・ハ長調の楽譜でも苦手意識があり、階名唱が難しい児童や音高感をつかめない児童が多い。歌唱では、音程をつかむこと、伴奏に合わせて響きのある歌声で歌うことに課題がある。器楽では、リコーダーの運指を正しく覚えられていない児童や楽器の基本的な使い方を理解していない児童も各学級の半分ほどいる。改善策として、歌唱では音程の取りやすい短めの曲を歌詞だけではなく、音名で歌ったり、楽譜の音符の動きを指で追ったりなど常時活動で身に付く活動を繰り返し、パターンを増やしたり変えたりしながら取り組む。器楽では、ICT機器を使って、手本動画やパワーポイントを使った楽曲提示など視覚的に見やすい教材を工夫する。
図画工作	・制作手順を考えて、段ボールカッター、電動糸鋸を正しく使うことができる。 ・身近にある作品などから自分の見方や感じ方を広げることができる。	・自分の表現したいことに対して、適切な用具選びをすることに難しさを感じる児童が多い。安全面に十分配慮した上で、制作手順を考え、用具を操作できるようにする。 ・自他の作品への関心が一層広がってくる時期であることから、鑑賞を通して、自分の見方、感じ方を広げ表現を豊かにする。（2学期に、「はけの森美術館」鑑賞予定）
体 育	・短縄跳びにおいて5種類以上の幅広い技に取り組むことができる。	・年間指導計画に基づいて、縄跳びの学習時に、一人1台端末の動画機能を活用し、視覚的に技のこつを理解させる。
外国語活動	・外国語を使って自分のことを伝えることができる。 ・外国語で簡単なあいさつをすることができる。	・学んだ文型を使って、友達や教員、A L Tとコミュニケーションをとることができる。 ・会話の機会を確保し、自分の好きなものを簡単な会話文で伝えることができるように繰り返し話す場を設定する。
道 徳	・相手のことを思いやり、進んで親切にすることができる。	・主人公の行為を支える心の内面をたずねることで、主人公の判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えることができていた。今後も、自分自身の経験の振り返りの時間を十分に確保する。

令和7年度 授業改善推進プラン 5年生 小金井第二小学校

	身に付けさせたい基礎基本	児童の実態と改善プラン
国 語	・新出漢字（193 字）が読める。 ・年間30冊以上、本を読むことができる。 ・分からない言葉は自分で調べることができる。	・漢字テストの正答率が、1学期末は7割程度だった。モジュール学習や宿題での取組を通して、8割を目指す。 ・教科の関連図書の紹介などを通して、図書活動を推進する。 ・分からない言葉や漢字について、自分で調べず質問することが多い。辞書や一人1台端末を活用し、自分で調べられるようにする。
社 会	・都道府県の位置と名前が分かる。	・地名と特徴が結び付いていない児童が多い。単元の内容で出てくる地域について、日本の中での位置を地図帳や一人1台端末を活用しながら覚えていく。
算 数	・小数のわり算の筆算ができる。 ・公倍数、公約数が分かる。	・1学期に学習した小数のわり算では、途中の掛け算・引き算や小数点を置く位置についての混乱が見られた。授業での練習問題や効果的な宿題に取り組みせたり、一人1台端末を活用して各自の課題に応じた練習時間を確保したりして、習熟を図り、平均正答率7割を目指す。
理 科	・生物の誕生のしくみが分かる。 ・顕微鏡の使い方が分かる。	・実験や観察に意欲的に取り組んでいる。「理科の学び方」の手順に沿って学習を行う。問題解決の過程を大切にし、予想や仮説を立て解決の方法を発想させる。 ・顕微鏡の使い方や注意事項を事前に指導し、友達と協力してできるようにする。
総 合	・調べたことを通して、自分の考えをもつことができる。 ・原稿を見ないで1分30秒の発表ができる。	・自分の考えをまとめたり表現したりすることを苦手としている児童がいる。自分の考えをまとめる学習を行い、引用した部分と自分の考えの部分を分け、文章の構成を立てられるようにする。 ・一人1台端末を活用し、撮影した写真を活用したりインターネットの文献を引用したりしながら、整理・分析したことをまとめることができるようにする。
音 楽	・正しい音程と響きのある歌声で歌ったり、幅広い楽器構成で合奏したりすることができる。	・発声の仕方や周りと調和する歌声、正しい音程で歌うということに課題がある。発声練習を常時活動として取り入れ、自然に響きのある声、周りと調和する歌声を出せるようにする。伴奏音源の工夫や無伴奏、トーンチャイムの単音、ピアノ伴奏などバリエーション豊かなものに合わせられるようにする。歌唱や器楽の学習では個人での活動を基本としながらペアやグループ活動も充実させ、音を媒介にしたコミュニケーションを大切にする。人間関係が一定にならないように楽曲や練習方法によってグルーピングし、全員が演奏しやすい意見を言いやすい雰囲気作りも大切にする。
図画工作	・用具や材料の良さを生かして表現活動を行うことができる。 ・身近にある作品などから自分の見方感じ方を深めることができる。	・材料や用具への関心が高く、様々な材料、用具に触れる機会を設けている。安全面に十分配慮した上で、作品制作を通して、材料や用具の効果や可能性を確かめ、それを生かして使うことができるようにする。（環境設定の工夫） ・自分で選択し、自分らしさを追求することを活動の基軸にしている。親しみのある作品などから自分の見方、感じ方を広げ表現の選択肢をより豊かにする。（鑑賞の時間の設定）
家 庭	・なみぬい、玉結び、玉どめなど、基本的な手縫いができる。 ・ミシンの使い方が分かり、縫うことができる。 ・コンロや包丁の取り扱いが分かり、安全に調理をすることができる。	・初めての裁縫に興味をもち、工夫して小物作りができたが、動画を活用したり、個別に指導したりすることで、全員が達成できるようにする。また、小物作りを通して、楽しんで手縫いの基本を身に付けられるようにする。 ・ミシンの糸かけができ、真っ直ぐ縫うことができるようにする。 ・授業中、協力して調理実習ができたが、お茶を淹れたり、簡単な調理をしたりする経験を通して、家庭での実践を促し、調理の流れや安全な器具の取り扱いが分かるようにする。
体 育	・自分のペースで5～6分走り続けることができる。	・運動に意欲的に取り組むが技能の差が大きい。自分のペースを把握し、同じ速さで走ることができるよう継続的に指導する。
外国語	・外国語を使って簡単な会話をするができる。	・積極的に発言することに課題がある児童もいる。簡単な英語での会話の機会を設定し、積極的に発表ができるようにする。デジタル教科書を活用し、映像を用いて英語での表現に慣れ親しむことができるようにする。
道 徳	・誠実に責任のある行動をとることができる。	・自己の役割や責任について、意識が薄い児童もいる。誠実を主題とする授業を行い、日常生活での自身の行動について考えられるようにする。 ・ワークシートを通して自身の考えを表現し、互いの考えを交流し合う。

令和7年度 授業改善推進プラン 6年生 小金井第二小学校

	身に付けさせたい基礎基本	児童の実態と改善プラン
国 語	・新出漢字（191 字）が読める。 ・年間30冊以上、本を読むことができる。	・大半はできているが、読めない児童も若干いる。繰り返し練習し小テスト等で定着を図る。 ・図書の時間を確保することが難しいが、さくらんぼの会の読み聞かせやいっしょに読書、夏休みの読書等の機会を有効活用し、読書啓蒙を行う。
社 会	・時代の大まかな流れが分かる。	・歴史への興味や関心は高く、すすんで調べたりまとめたりする児童が多い。時代と時代のつながりや出来事の背景、現代との関わり等を考えられるようにして、時代の大まかな流れを捉えられるようにする。
算 数	・分数計算ができる。（約分・通分） ・四則混合計算ができる。	・四則計算に加え、通分や約分などの技能に個人差が見られる。習熟度別の指導を行う中で、それぞれの力量に合わせた問題を解かせることで、個に応じて計算力を高められるようにする。
理 科	・燃烧の仕組み、植物や人体の構造が分かる。 ・酸とアルカリの区別ができる。	・問題解決の過程を軸に指導を繰り返し、燃烧のしくみや植物の体について実験を通して理解できるようにした。また、単元の指導期間は人体模型を教室に置くなどして、日常的に人体の構造に興味をもてるようにした。 ・水溶液の性質についても、酸とアルカリの区別について、身近な事例を取り入れながら、実験を通して理解を図れるようにしていく。
総 合	・自分の考えを分かりやすく伝えることができる。 ・原稿を見ないで2分間の発表ができる。	・たてわり班活動においては、下級生が楽しめるように活動を工夫し、分かりやすく、端的に遊び方などを伝えようとしている。 ・2学期に清里林間学校の報告会を控えている。自分の考えや思いなどをまとめ、相手を意識して発表できるよう指導する。
音 楽	・各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴きながら合唱したり、幅広い楽器構成で合奏したりすることができる。	・ほとんどの児童が響きのある歌声や楽器の特徴を生かした演奏方法で周りの音を聴きながら演奏することができるが、児童自らが演奏表現に対する思いや意図をもつこと、楽曲の良さや自分たちの演奏の課題を見出すことに課題がある。改善策として自身の演奏をICT機器で録音し、客観的に聴く機会や友達同士で聴き合う活動を随時、取り入れて互いに振り返りができるようにする。また、一人一人の思いや意図、工夫点などをワークシートやICT機器を使って全体で共有する場を設ける。
図画工作	・用具や材料の良さを生かして表現活動を行うことができる。 ・身近にある作品などから自分の見方や感じ方を深めることができる。	・材料や用具への関心が高く、様々な材料、用具に触れる機会を設けている。安全面に十分配慮した上で、作品制作を通して、材料や用具の効果や可能性を確かめ、それを生かして使うことができるようにする。（環境設定の工夫） ・自分で選択し、自分らしさを追求することを活動の基軸にしている。親しみのある作品などから自分の見方、感じ方を広げ表現の選択肢をより豊かにする。（鑑賞の時間の設定）
家 庭	・ミシンを使って直線縫いができる。 ・栄養バランスを考えて、一食分の献立を立てることができる。 ・掃除や洗濯など家庭生活に必要な家事ができる。	・手縫いで小物作りはできるので、ミシンの基本的な取り扱い方を繰り返し指導したり、視覚的に捉えやすいポスターを掲示したりしながら、9割の児童が一人でミシンの直線縫いができるようにする。 ・基本的なゆでや炒めの調理はできるので、五大栄養素を視覚的に提示し、調理実習や家庭での経験を基に考えさせたり、食材カードを活用させたりして、興味をもって栄養バランスを考えられるようにする。 ・場所や汚れによって掃除の仕方や洗濯の仕方を実際に掃除や洗濯ができるように調べて、取り組めるようにする。
体 育	・縄跳びの二重跳びが4回以上できる。	・運動に対する意欲や関心は高い。一方で、技能面、特に巧緻性の点においては個人差が大きい。ICT活用による模範動画の視聴や仲間同士での学び合いによって、技能だけでなく思考力も高められるようにする。
外国語	・外国語を使って進んでコミュニケーションをとることができる。	・意欲的に取り組める児童が多いが、同時に個人差も大きい。また、自分の考えていることを書くことはできるが、それを英語で表出させることが苦手な児童も見られる。児童相互で学び合ったり、得意な児童にフォローさせたりすることでコミュニケーション能力をさらに高めていく。
道 徳	・誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすることができる。	・様々な価値項目を扱う中で、自分の日常生活を振り返らせることで、日々の生活を見つめられるようにしている。道徳に限らず、学級活動などとも横断しながら、仲間とのよりよい共同生活が送れるように指導していく。